

技術概要書（様式）

※別紙2

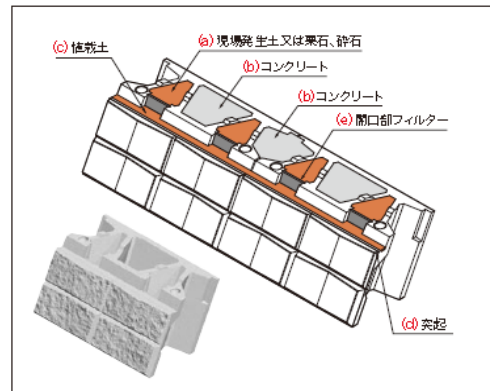
技術分類	安全・防災 維持管理 環境 コスト ICT 品質 （該当する分類に○を付けてください）		
技術名称	レグストーン	担当部署	福岡設計技術課
NETIS登録番号	-	担当者	川添 謙一
社名等	インフラテック株式会社	電話番号	092-474-2450
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>従来のコンクリートブロック積護岸と同等の耐浸食強度が期待でき、可能な限り自然環境の保全に配慮した環境保全型ブロックです。施工性向上のため、水平積みで法勾配1:0.5に対応できるよう開発されました。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>1) 練積構造 法勾配1:0.5に適応。縦方向に連続した胴込コンクリートにより一体化した練積み構造ブロックです。</p> <p>2) 施工性 水平積み(1:0.5)で大型化(1㎡当り2個使用)されているため、施工性に優れています。ブロックはイモ積みが基本ですが、現場条件によっては千鳥積みも可能です。</p> <p>3) 明度 ブロック表面の石目模様を更に特殊形状とし、周辺の明度に配慮した製品になっています。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>水平積みで大型化されているため、施工性に優れています。 また、壁体内部の胴込め土砂とブロック一段ごとに設けられる溝部に覆土した土砂で、植物が繁茂できる場所と昆虫等が生息できる場所を提供できます。縦方向に連続した胴込め土砂は、毛細管現象によって高い保水力を発揮、植物の繁茂がより期待できます。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>法勾配1:0.5に適応</p> <p>5. 活用実績</p> <p>国の機関 2 件（九州 2件、九州以外 0件） 自治体 59 件（九州 59件、九州以外 0件） 民間 5 件（九州 5件、九州以外 0件）</p>		

6. 写真・図・表

構造概要

ブロックを下图に示すように組積みし、壁体内部に形成されるブロック中空部(a)に植栽土を、また、ブロック相互の中空部(b)にコンクリートを充填します。

(c)部に盛られた植栽土は、突起(d)により流失が防げます。また、開口(e)部には中詰め土砂の流失を防ぐため、フィルター等をセットします。



標準断面図

■胴込材の選定例

1. 河川に使用する場合

常時水中にある部分及び流水の影響を受ける部分までは、割り栗石または砕石を使用します。

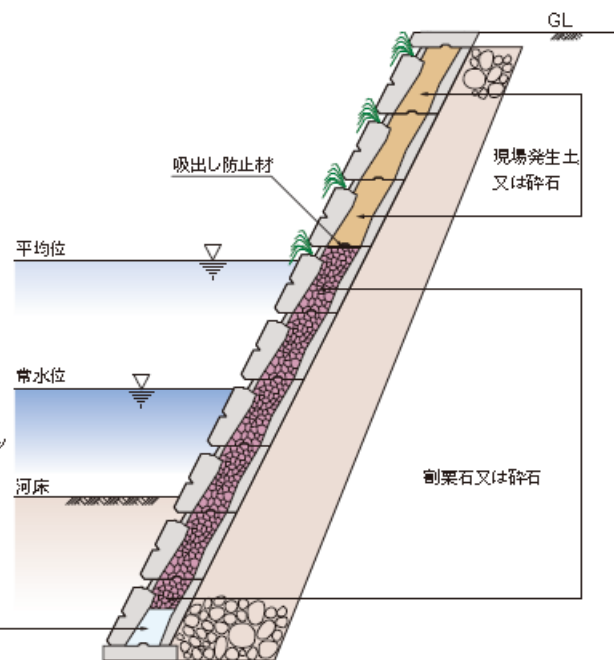
2. 道路・公園等を使用する場合

植生効果を促進する必要がある場合には、すべて植生土を使用します。植生土は現場発生土を使用することも可能です。

■安定検討について

レグストーンは、1個当たりの壁体重量が容長35cmのコンクリート種ブロックとほぼ同等のため、設計はブロック種擁壁に準じて行います。

※ 最下段ブロックには、基礎工との一体化を図るため胴込め材を入れる部分にも、コンクリートを半分の高さ程度充填してください。



施工現場写真